

# 茨城大学学報

第289号

平成22年2月～平成22年3月



学生センター前の桜

## INDEX

- ◆ 磯田人文学部准教授がNHK関東甲信越地域放送文化賞受賞
- ◆ 「御三家水戸藩の光と影」を開催
- ◆ 就活イベント「Find Yourself - 内定者と探す新しい自分 -」を開催
- ◆ 茨城県北ジオパーク推進協議会設立総会を開催
- ◆ ガジヤマダ大学と大学間学術交流協定を締結
- ◆ 平成21年度4大学院連携先進創生情報学教育研究プログラム  
人間創生情報学コース修了証授与式を挙
- ◆ 平成21年度茨城大学卒業式
- ◆ バイオ燃料(E10、E3)試走会 走行・試乗会および記者会見を開催

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## ◆ 磯田人文学部准教授がNHK関東甲信越地域放送文化賞受賞

人文学部の磯田道史准教授が第15回NHK関東甲信越「地域放送文化賞」を受賞し、2月5日（金）東京のNHK放送センターで授賞式が行われました。

磯田准教授は受賞に際し、「頑張って歴史番組を作った成果が認められたことは非常にうれしいです。今後は、県南の歴史や、今日でも伝わる料理に使われる食材など、身近な物の文化や伝統なども研究していきたい」と受賞の喜びと今後の研究の意欲を語りました。



記念撮影の様子

## ◆ 「御三家水戸藩の光と影」を開催

2月6日（土）、理学部インタビュースタジオにおいて、本学の名誉教授である鈴木暎一氏を招き、講演会「御三家水戸藩の光と影」を開催しました。この講演会は、図書館展示「水戸藩の地図と書」の関連催事として開催されたものです。参加者は、一般の方、学生など120名に上り、「歴史に興味があります。楽しみにして来ました」と開演1時間前から会場前で待っていた一般の方もいました。

小野寺淳副館長の開会の挨拶、講師の紹介に続き、茨城県文化財保護審議会会長も務める鈴木氏の講演が始まり、「歴史家は見てきたようにものを言い」などと楽しい語り口で、終始なごやかな雰囲気となりました。

また、講演の中で「図書館の展示会場に私が真筆と鑑定した藤田東湖の書が展示してあります。図書館に頼まれて、私が真筆と鑑定したら、次の日新聞に掲載されました。真筆ですよ」と会場の笑いを誘いました。講演会後に多くの方が一日本物を見ようと、展示会場へ向かいました。

事後のアンケートでは、「光の部分はよく知っていましたが、影の部分を知ることは、物事を冷静に見つめることの必要性を感じました」「歴史講座を定期的で開催してほしい」などの声がありました。

今回の講演会は、一般の方が気軽に地域の歴史を学び、楽しめる好機となりました。



講演中の鈴木氏



満席の会場

## ◆ 就活イベント「Find Yourselfー内定者と探す新しい自分ー」を開催

学生就職支援センターでは、厳しい就職環境のもとで就活を進める学生達のために新たな試みとして、学生就活支援サークル「Bridge」（代表：人文学部4年竜田遼）と共催で2月6日（土）、13日（土）の2回にわたり、就活イベント「Find Yourselfー内定者と探す新しい自分ー」を開催しました。

今回のイベントは、就活を終えた就職内定者12名が就活中の後輩のために「私たちは、君の熱意を裏切らない」を合い言葉に「一人ひとりと向き合った徹底した個別指導！」「実践形式やアドバイスを通して、就活に対する視点を変える」の2つを約束として掲げ、自己分析セミナー、グループディスカッション、質問会の3部構成で実施しました。

参加した33名の学生からは、「就活生側の生の声が聞けて参考になった」、「就活の不安が解消できた」、「一人ひとりへの個別指導やグループディスカッションの実践の効果が大きかった」等、参加者全員から100%満足したとの声が寄せられ、先輩から後輩へのきめ細かな支援は、就活への取り組みが一人ではなく、一緒に考え、相談しあえる仲間が身近にいるという、すばらしい友愛となって結実しました。

このイベントを通して、学生間（先輩・後輩）の良好な関係が就活に当たって大きなサポートとなっていることを実感しました。今後も学生就活支援サークル「Bridge」と新たな企画を検討するなど、連携・協力を図りながら就職支援に努めていきます。



イベントの様子

## ◆ 茨城県北ジオパーク推進協議会設立総会を開催

2月24日（水）、本学にて茨城県北ジオパーク推進協議会設立総会を開催しました。

これは、ジオパークという地質や地形などの地学的遺産と文化芸能などの文化的遺産を合わせた「自然文化公園」を茨城県北に立ち上げ、地域の活性化を図ることを目的に、その活動母体となる推進協議会を立ち上げたものです。

当日は、参画団体の首長ほか多くの関係者が出席し、本学においても池田幸雄学長をはじめ、多数出席しました。

はじめに、議長を務めた池田学長が、「紆余曲折を経てようやくこのスタートにたどり着けました。参画団体の皆様と協力し、素晴らしい茨城県北ジオパークを作り地域に貢献したいと思います。」と述べました。

次に、規約の制定に入り異議なく了承された後、本協議会役員の選出では、会長に本学の池田学長が、副会長に豊田稔北茨城市長、草間吉夫高萩市長がそれぞれ選出されました。また、具体的に県北ジオパークを推進していく運営委員会の委員長に、本学の天野一男地域連携推進本部長（理学部教授）が、副委員長に高橋上グリーンふるさと振興機構事務局長が選出されました。

議事の協議後は意見交換を行い、出席者から数多くの意見が出され、県北ジオパークにかける意気込みが伝わってきました。

最後に出席者全員による記念撮影を行い、いよいよ壮大な計画がスタートする熱気が冷めやらぬまま総会は閉会しました。



出席者全員による記念撮影

## ◆ ガジャマダ大学と大学間学術交流協定を締結

3月2日（火）、本学はインドネシア共和国ガジャマダ大学と大学間学術交流協定を締結しました。

調印式は水戸キャンパスで行われ、本学からは池田幸雄学長らが、ガジャマダ大学からはスジャルワディ学長らが出席し、学術交流協定書ならびに学生交流に関する覚書に調印しました。

また、調印式後はスジャルワディ学長がガジャマダ大学における教育・研究について講演を行いました。当日は本学の学生によるフォーラム、ポスターセッションも開催され、活発な意見交換が行われました。

本学農学部とガジャマダ大学は平成12年に学部間協定を締結しました。その後は国際シ



ガジャマダ大学のスジャルワディ学長による講演会

今回の学術交流協定締結を機に、これらの交流をさらに進展させるとともに、今後は両大学間でダブル・ディグリーを構築する方向で検討が進められています。



左から池田学長、ガジャマダ大学のスジャルワディ学長

ンポジウムの開催、本学大学院における共同プログラム「地域サステナビリティ実践農学・グループ課題演習」の単位化、ガジャマダ大学の教育研究資産を利用した「熱帯農業フィールド実習」の授業を行うなど研究・教育両面にわたって相互の交流をはかってきました。

## ◆ 平成21年度4大学院連携先進創生情報学教育研究プログラム 人間創生情報学コース修了証授与式を挙行

3月17日(水)、宇都宮大学、群馬大学、埼玉大学と本学による「4大学院連携先進創生情報学教育研究プログラム人間創生情報学コース」修了証授与式を挙行了しました。修了証授与式は、インフォメーションセンターにおいて、インターネットによるテレビ会議システムを利用して行われ、本学の理工学研究科4名、宇都宮大学大学院工学研究科2名の計6名に修了証が授与されました。平成20年6月に開講されたこのプログラムは、今年度初めて修了生を送り出すことになりました。

出席者が見守る中、各大学の様子が映し出され、最初に、議長である埼玉大学の川橋正昭理事・副学長から開会の辞の後、引き続き各大学の学長から挨拶とお祝いの言葉がありました。その中で、池田学長は、本プログラムを修了する学生の努力を称えとともに、本プログラムを推進してきた関係教員に対して感謝の意を表しました。また、最先端の知識と柔軟な対応力を身につけたプログラム修了生が社会において活躍することを期待している旨の祝辞を述べられました。

続いて、池田学長から修了生に修了証が授与され、修了生代表挨拶では、大学院生活での印象深い出来事などを振り返るとともにプログラムに関係した先生方に対して感謝の意が述べられました。最後に、本学の田切美智雄副学長から閉会の辞があり、修了生の門出を祝いました。



修了生と役員等との記念撮影

## 平成 21 年度茨城大学卒業式

平成 21 年度卒業式は、3 月 24 日（水）午前 10 時から茨城県武道館において、学長、役員等の参列のもとに挙行されました。

式は、本学管弦楽団の前奏に始まり、池田学長から学部、大学院および専攻科の卒業生、修了生の学部等の総代に学位記、修了証書が授与され、学長告辞、来賓祝辞、卒業生、修了生総代 鈴木晴香（教育学部）の答辞と続き、最後に参列者全員による校歌斉唱で閉式となりました。

なお、今回巣立った卒業生は、2,108 名でした。

### ◆ 平成 21 年度卒業式告辞

茨城大学長 池田 幸雄



すっかり春めいて参りました。桜の花もほころび始めている今日この頃でございます。本日、茨城大学をご卒業される 2,108 名の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。また、学生諸君を励ましつつ、ご支援をいただきましたご家族の方や関係者の方にも、心よりお祝いを申し上げます。

さて、最近、日本の産業界の方や教育界の方から、日本人の「倫理観」についての論評を聞くことが多くなりました。そこで、今日は皆さんに「日本人の倫理観」について私の考えをお話してみたいと思います。

最近の日本社会では、いろいろな不祥事が多発しています。たとえば、不特定多数の殺人事件が突如発生したり、若い夫婦が我が子を虐待したり、賞味期限や原産国等の商品表示に偽りがあったりします。また、公務員や会社員が不正経理をする、政治家のモラルが著しく低下している、大麻などの麻薬が学生等に蔓延している、などが報じられています。これらの社会的な不祥事は、日本人に「倫理観」が欠如しているのが原因であるとの意見があります。

欧米では、キリスト教に基づいた「倫理観」があり、イスラム諸国にはイスラム教に基づいた「倫理観」があります。しかし、日本人の場合、宗教に基づいた「倫理観」は比較的希薄のように思います。もちろん、宗教に基づかない「倫理観」もいろいろあります。たとえば、「ヒューマニズム」、「博愛主義」、「科学万能主義」、「自由主義」、「巧利主義」、「個人主義」などです。このうち、私は「個人主義」について、ここで簡単にお話したいと思います。

かの有名な小説家「夏目漱石」は大正初期に学習院大学で講演し、その内容を短編小説「私の個人主義」として出版しています。この「個人主義」は夏目漱石の人生観を端的に表していて、大まかには次のようなものです。人は一般に「自分は自由に生きたい」と考えているので、他人にこの権利を侵害されたくないと思っています。この場合、他人も同じように「自由に生きたい」と考えているはずだから、他人の権利も同時に尊重しなければなりません。要するに、夏目漱石の考えは、「自分は自由に生きたい」という権利を全ての人が互いに認め合いましょうということです。これが夏目漱石の「個人主義」であり、大変シンプルで、かつ、分かり易い考えです。



しかしながら、この夏目漱石の「個人主義」は約 100 年も昔のことであり、現在の日本社会は大正初期の社会とは比較にならないほど、高度に発展した複雑な社会になっています。したがって、夏目漱石の「個人主義」に対して、いくつかの現代的疑問が湧いてきます。

まず、第 1 の疑問は「自分は自由に生きる」という場合、「自分」とは何を意味するか？ということです。「自分」とは人間だけでしょうか？それとも動物までも含むのでしょうか？最近ではペット・ブームで、犬や猫は家族同然になっています。しからば、牛や豚や魚はいかがでしょうか？この問題は大変重要ですので、ぜひ皆さんが自分自身で考えて、答えを見つけてください。

第 2 の疑問は「自由」とは何か？ということです。自由とは己の勝手気ままに振舞い、

公共性や社会的責任を考えなくても良いのでしょうか？ そうではありません。実は、「個人主義」は全ての人が認め合うということですから、人々の集合体としての公共の権利も尊重しなければなりません。このため、公共性や社会的責任も必然的に果たさなければならないこととなります。このことも大変重要なことです。

第3の疑問は、「生きる」とは何を意味するのでしょうか？ 人間は一人では生きることができません。人間には、必ず家族があり、それを取り巻く社会があって、その一員として生きることができます。この「社会的動物」である人間は、実に「傑作な生き物」です。物事を記憶する能力を十分に備えていたり、ものを見て正確に認識したり、人と言語でコミュニケーションをしたりいたします。また、勉強をしたり仕事をしたり、時には喜んだり悲しんだり、人を愛したり喧嘩したり、実に多様なことができます。人間は小さな「生き物」ですが、その能力たるや驚くべき素晴らしさがあります。皆さんにもこの人間の素



晴らしさをぜひ自ら再認識して頂きたいと思います。人間の寿命は精々100年程度です。我々の広大な宇宙から見ると、100年などあっという間にすぎません。人間の生涯は短いからこそ、あなた方には「生き甲斐のある人生」を精いっぱい生きてほしいと思います。

夏目漱石の「個人主義」に対峙する考えに「利己主義」があります。これは、己の権利のみを主張し、他人の権利は無視します。最近では、この「利己主義」に代わって「自己中心主義」又は「自己中」といわれています。21世紀の日本では、核家族化が進行すると共に、パソコン・ゲーム等の普及が、子供たちに大きな変化を来しています。家族や地域社会でのコミュニケーションが減少して、地域の共通理解が少なくなり、若者が孤立する傾向にあるといわれております。この孤立が若者を「利己主義」に偏らせる結果になります。「利己主義」が横行する社会は健全ではありませんが、残念ながら、この利己主義が現代の日本人に広がっているようです。権利のみを主張して、必要な義務を果たさない人が増えています。

現在の日本社会ではそれぞれの分野で各種の「倫理綱領」などが既に導入されています。

たとえば、「生命倫理綱領」、「技術者倫理要綱」、「科学者行動規範」などいろいろありますが、大変複雑なので、専門家以外は簡単に理解できません。今、ここで大変シンプルな「夏目漱石の個人主義」を思い起こしてほしいと思います。特に卒業する若者には、この「個人主義」を十分に理解し、健全な社会を作り上げる気概を持ってほしいと思います。

あなた方の生きていく世界は21世紀の世界です。この世界では、社会は急速に変化しています。たとえば、皆さんが毎日利用している「携帯電話」も毎年進化し続けています。また、液晶テレビ、パソコン、自動車、食べ物や草花の新種などが急速に変化しています。学問も、生命科学、情報科学、環境科学などが著しく発展しています。政治や経済の分野でも激変しています。この先、社会の変化はさらに指数関数的に速度を速め、今後、劇的な展開が次々と繰り広げられることでしょう。今、卒業する学生諸君は、21世紀の激動する社会に対処していかなければなりません。皆さんが茨城大学で蓄えた知識と柔軟な思考力を活用すると共に、更に研鑽に励みながらも、必要に応じて「夏目漱石の個人主義」を思い出して、来るべき激動の時代を乗り切りたいと思っています。

最後になりましたが、茨城大学は皆さんを今後とも応援し続けます。卒業生諸君の健康と今後の活躍を期待いたしまして、私の「はなむけの言葉」といたします。本日はご卒業、本当におめでとうございました。



## ◆ バイオ燃料（E10、E3）試走会 走行・試乗会および記者会見を開催

3月26日（金）、バイオ燃料社会プロジェクト（IBOS）は、茨城県、日立市、かすみがうら市、阿見町とともに、水戸キャンパスにおいて、資源作物スイートソルガムから作ったエタノールをガソリンに10%と3%それぞれ混合させて公用車の試走会を行いました。スイートソルガム燃料の本格的な活用は国内でも初の試みです。

はじめに、池田幸雄学長、各自治体代表者の挨拶があり、試走会の経過説明の後、走行・試乗会を行いました。試乗した池田学長は、「大変気持ちよかった。日本中で走らせることができれば二酸化炭素の削減につながる」と話しました。また、農学部の新田洋司教授は、記者会見において、エネルギーの地産地消を目指し、栽培から利用まで一貫した「茨城モデル」を2年後までに確立させたい考えを述べました。

当日は、学生や一般の方なども多数参加し、公用車の乗り心地を体験し、試走会は盛会のうちに終了しました。



挨拶する池田幸雄学長



バイオ燃料の給油作業



学内走行に向かう試走車



記者会見の様子